



(発行名義人) SSKR
障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21
1992年4月17日
第三種郵便物認可
(毎月3回7の日発行)
会報浜身連146号
定価60円

(編集人) 公益社団法人
横浜市身体障害者団体連合会
横浜市港北区鳥山町1752
障害者スポーツ文化センター
横浜ラポール3階
内田元久

5年振りの街頭イベント

2024障害者週間



体験コーナーでの様子。
浜視協、横聴協、浜難聴の会員が、市民と対面で、交流イベントを行いました。写真は手話・筆談体験コーナー

【関連記事は2面に掲載】



年頭あいさつ

浜身連理事長 内田 元久



新年明けましておめでとうございます。当連合会会員の皆様にはお健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。当会も着実に会の運営と事業活動を進めております。また、障害者の社会参加の推進に多大なご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

昨年1月1日夕方には、能登半島で震度7の大地震が発生。翌日には、羽田空港で日航機と海保機の衝突など大ニュースで明けられた新年早々、当会新年の集いに元気で出席された後に、佐藤秀樹前理事長が急逝され驚きとショックを受けました。

4月には「改正障害者差別解消法」が施行され、民間事業者の合理的配慮が義務化となり、共生社会へ大きな一歩を進めることができました。

夏にはパリオリンピック・パラリンピックが開催され、日本人選手が多くのメダルを獲得できたことが大きな喜びとなりました。また、聴覚に障害のある人が出場するデフリンピックが本年11月に東京で初開催されることに大きな期待がもてます。ただ、このデフリンピックについては、オリンピッ

ク・パラリンピックと違い認知度が低い状態のため、全国に広く知れ渡るよう働きかけたいと思います。皆様の応援をお願いします。

世界に目を向けますと、いくつもの国で戦争が続いており、子どもを含めた多くの民間人が犠牲となりその数は増えるばかり。悲惨な戦争を終わらせ、平和への道が拓かれることを心から祈っています。

10団体が加盟する浜身連としても、それぞれの障害を乗り越える同じ仲間としてお互いの障害を理解し合い、人権を守りながら共に力を合わせて共生社会の実現をめざしていきたいと思います。

より明るく元気な年を迎え、ともに希望と喜びがあらわれる一年となりますよう、みなさまの益々のご健勝を祈念いたしまして新年のあいさついたします。

年頭挨拶

横浜市長 山中 竹春



あけましておめでとうございます。皆様が新たな年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。令和7年は、市民の皆様への安全・安心で心豊かな生活の実現、横浜の持続的な成長・発展に向けて、取組を一層加速させてまいります。

中学3年生までの小児医療費無償化や出産費用の独自助成に続き、子育て世代のゆとりの創出や、来年4月からの中学校での全員給食開始に向けた準備など「子育てしたいまち」に向けた取組を更に前進させてまいります。また、医療・福祉や地域交通の充実、防犯対策、社会経済情勢に対応した支援にも取り組み、あらゆる世代の市民・事業者の皆様をしつかり

とお支えしていきます。

昨年元日に発生した能登半島地震から1年。いつ起きてもおかしくない大規模地震から市民の皆様への命と暮らしを守るため、これまでの防災戦略を「市民目線」で抜本的に見直し、防災前からの備えの強化や本市初の広域防災拠点の整備など地震防災対策を大幅に強化し、「災害に強靱なまち」にしていきたいです。

国内外の人を惹きつけるため、国内随一の美しい水際線を世界に誇る観光資源に磨き上げるとともに、公共空間の活用や民間企業との連携などにより、横浜ならではの魅力あるまちづくりを進め、賑わいを生み出していきます。

気候変動が急速に進む中、横浜のかけがえない環境を将来世代に引き継ぐためには、一人ひとりが、地球環境や自然・植物と共生する意識を持ち、行動していくことが鍵となります。

2年後には、環境と共生し、皆様と共につくる「環共」がテーマの国際博覧会「GREEN X EXPO 2027」を横浜・上瀬谷で開催します。博覧会の成功とその先の持続可能な社会の実現に向け、環境に配慮したライフスタイルや、企業価値を高める脱炭素経営の後押しなど「地球にも人にもやさしいまち」に向けた取組を強力に推進していきます。

今年も、市民・事業者の皆様への「声」を大切にすることを第一に、誰もが「住み続けたい」と思えるまちの実現に向け、全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



浜難聴 加藤たま枝さん